

旭陵倶楽部

第17号

発行責任者：新村 篤
編集長：藤川 幸久
編集委員：日高 朋子
発行日：2007年6月23日

結集！旭陵同窓会 世代を越えて



西高校歌に歌われる風師山（362m）は門司港の背後に聳え、山頂部は3つの峰からなる。名前の由来は諸説あり、古書には挿頭山と書かれ髪飾りを指すらしい。山頂部には吉井勇の歌碑がある。

「風師山 登りて空を 仰ぐとき 雲と遊ばむ ころろ起こりぬ」

写真■母校より風師山を望む（撮影／福田 強 先生）



【目次】

■下関NOW! ぶち新しい話題	… 2～3頁
■ごあいさつ	… 4頁
■メッセージ	… 5頁
■新旧幹事代表あいさつ	… 6頁
■恩師からの便り	… 7頁
■ぶち、がんばっちょるよ!!	
下関西高の後輩たち	… 8～9頁
■他支部からの便り	… 9頁
■われらが旭陵の歴史	… 10～11頁
■各期生からの便り	… 12頁
■第53期生からの便り	… 13頁
■東京支部便り	… 14～15頁
■支部総会のご案内	… 16頁
編集後記	… 16頁

1. ロンドンバスが走る街

下関市内を真っ赤なボディのロンドンバスが走ります。昨年の旧英国領事館建設百周年記念事業を契機に、ロンドンバスの英国・ロンドン交通局から無償貸与が実現しました。このバスはダブルデッカー（2階建て、高さ約4.4m）、65人乗りで、年齢は45歳（1962年製）とかなり高齢ですが、国内で運行できるように改造・整備のうえ、内外装とも綺麗にお化粧直しされて運行されます。



運行ルートはJR下関駅から唐戸を経由して城下町長府までで、乗車料金は路線バスと同額を予定しているそうです。ただし、運行期間は7月から12月の5か月間で、土・日・祝日に1日4往復します。

夏休みの期間中は、唐戸地区での平日の展示も予定されているようです。帰省の際は、ぜひロンドンバスに乗って、このバスでしか体験できない2階の車窓からの関門海峡の風景を堪能してみたいはいかがでしょうか。



2. 下関駅舎に代わるランドマーク

昨年1月に火災で消失した下関駅舎は、もともと鉄筋4階建ての計画だったことをご存知でしょうか。当時は戦時中だったため木造の仮駅舎として建設されましたが、結局、建て替えられることはありませんでした。奇しくも駅舎消失は、下関駅舎改築計画「下関駅にぎわいプロジェクト」が公表され、これから改築の端緒につこうとした矢先の出来事でした。

駅舎は仮復旧工事を昨年8月に終え、現在、店舗の多くが営業を再開するなど消失前の賑わいを取り戻しています。また、三角屋根駅舎の記憶を風化させないよう駅東口通路で「思い出の下関駅三角屋根写真展」が開かれ、「下関駅・思い出文集」も発行されました。

駅舎の本格的な再建時期は未定ですが、今は、ヨーロッパの宮殿を思わせるゴシック建築の重厚な外観をした建物（人工地盤を挟み駅東口の正面に位置する）が、下関駅舎に代わるランドマークとなっています。この建物、実は結婚式場で、ロンドンのセントポール大聖堂を雛型にしているそうです。ご興味のある方は、建物内のレストランでお食事をされてみてはいかがでしょうか。

3. 下関から映画の灯が消える？

今年2月、地元の新聞に「シーモール下関」内にある市内で唯一の映画館が、この秋にも閉館するかもしれないとの記事が掲載されていました。4月には関門海峡沿いの埋立地「あるかぼと地区」（海響館（水族館）のある唐戸地区の埋立地です）に計画されていたシネマコンプレックス（複合型映画館）を含む複合商業施設の建設計画が、開発事業者の撤退で白紙の状態になってしまいました。

下関フィルム・コミッションの活躍で、これまで数多くの映画ロケが市内で行われています。その中には昭和30年代から40年代、映画全盛期から斜陽期にかけての映画館「みなと劇場」を舞台にした映画『カーテンコール』もあります。このままでは、下関市内でロケされる映画を下関市内で観ることができなくなる日も、そう遠くはないようです。ほんとうに寂しいことですね。

(53期 田郵昇)



2006年、旭陵同窓会から母校に贈呈された緞帳（本誌4～5頁参照）

下関は映画の街

下関を舞台にした骨太の青春映画「風の外側」の監督、奥田瑛二さんは、1か月の撮影を終えた昨年11月初め、「関門海峡は人の心をなごませ、いい意味での逃げ場でありながら、力も与えてくれた」と、すっかり海峡に魅せられていました。

監督第3作「長い散歩」がモントリオール世界映画祭でグランプリなど3冠に輝いた直後に下関ロケに入ったこともあって、ひときわ力が入った撮影でした。海峡が映画の随所に映し出され、丸山町の梅光学院やグリーンモールなど下関市内が隅々までスクリーンに活写されました。下関で今年2月にあった完成特別試写会の席上、奥田監督は「必ずまた下関で映画を撮ります」と市民に約束したほどでした。今秋に全国公開の予定です。

いまや下関は映画の街と言われています。山口県観光連



唐戸の市立水族館海響館裏の海峡沿いで、深夜に

盟が昨年作った「山口県ロケ地MAP」も大半が下関で割かれています。きっかけをつくったのは下関出身の佐々部清監督です。

2002年春、下関を舞台にした「チルソクの夏」の撮影が決まった時、佐々部監督を応援しようと下関フィルム・コミッション（FC）が設立されました。事務局は市役所の観光振興課内に置き、民間サイドでエキストラ確保、公開時のチケット販売もこなすなど、官と民が互いに行き交うことを全面協力しました。

佐々部監督はこの後も「カーテンコール」（04年撮影、05年公開）、「四日間の奇蹟」（05年）、「出口のない海」（06年）とたて続けに下関ロケを敢行。佐々部作品でノウハウを身につけた下関FCの存在は全国の映画関係者に広く知られるようになり、視察も相次ぎました。それが06年の五十嵐匠監督「長州ファイブ」、中山節夫監督「ヘレンケラーを知っていますか」の下関ロケにもつながったのです。

「長州ファイブ」は4月末に米国の第40回ワールドフェスト・ヒューストン国際映画祭でグランプリを受賞しました。「下関映画」の記念碑的作品「チルソクの夏」は地元で記録的な大ヒットになり、今も全国各地で上映会が開かれているそうです。

ただ残念なのは、下関市内唯一のシーモール内の映画館が今秋には閉館が取りざたされていることです。ロケは盛んなのに映画が観られない…下関の映画文化の灯を消すなど関係者は躍起となっているところです。

(山口新聞特別編集委員 佐々木正一)

祝! 平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会
皆様のご健勝と盛会をお祈りします!
下関西高陸上部 OB (62期有志)

旭陵同窓会
第57期生
(昭和55年卒)
東行会一同
幹事 磯部弘志

祝
平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会
下関市役所
旭陵同窓生一同

竹内国際特許事務所
国内及び海外に於ける
特許、商標、意匠に関する手続き

代表者 竹内 裕 (第37期生)
弁理士

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目1番地
西脳ビル701号
TEL: 03 (3264) 7792 FAX: 03 (3264) 7834



祝
平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会



旭陵ゴルフクラブ 東京支部会
会員募集! 事務局 磯部弘志 (57期)
TEL 090-7416-9353



旭陵同窓会
東京支部長挨拶

旭陵同窓会東京支部長
白井 哲三郎
(第34期生)

支部長退任にあたって

さる3月10日(土)開催の旭陵同窓会東京支部常任委員会において、任期満了による支部長退任が承認されました。最終的には7月28日(土)東京支部総会での承認となります。

この間51期、52期、53期と毎年の幹事の方々、旭陵同窓会本部の方々、下関西高校長先生はじめ恩師の方々、そして会員の皆様のご協力により、何とか重責を果たすことができました。ありがとうございました。

振り返りますと、①総会への出席者を増やそう。昨年度(H18年度)は286名の出席者となりました。②若手の出席者を増やそう。昨年度は46名の若手が参加しました。③7月の総会のほかに年にもう一度集まろう。今年3月10日(土)、学士会館で、前最高裁判所長官 町田 顯さん(32期生)を講師にお迎えし、「裁判员制度について」講演会を行い、その後、懇親会を開催しました。120名の参加をいただき、大成功だったと思います。

おかげさまで当初の目標を達成できたと思います。また、私の後任に木下陽三さん(35期)という素晴らしい支部長を推薦できたことも自慢できると思います。

もう一度、関係者の皆様様へのお礼と、木下支部長を中心に旭陵同窓会東京支部がますます活性化し、発展することをお祈りしてごあいさつといたします。



旭陵同窓会
会長あいさつ

旭陵同窓会会長
前田 日出三
(第31期生)

緞帳寄贈へのご協力にお礼申し上げます

平成19年度旭陵同窓会東京支部総会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。また、お招きいただき光栄に存じます。東京支部の総会は、若い人、特に女性の出席が多く、華やかで活気に満ちたもので、たいへん羨(うらや)ましく思っています。

昨年、母校に新体育館が無事落成いたしました。出費多端の折、ご迷惑とは存じましたが、同窓会のみなさまに曲げてお願い申し上げます。おかげさまで目標額が充分達成され、立派な緞帳と暗幕を寄贈することができました。心よりお礼申し上げます。

今年の卒業式に出席させていただきましたが、開式の宣言とともに、緞帳が厳かに、滑らかに揚がるのを見て、胸が熱くなるのを覚え、感激いたしました。ひとえにみなさまのご厚情の賜物と、厚く厚くお礼申し上げます。

今年の6月8日(金)、西高文化祭に、前最高裁判所長官の町田顯氏(32期生)がご講演されることをご披露申し上げます。

また、今年の卒業生から各支部の住所を教えることになりました。関係者のみなさま、よろしく願い申し上げます。船出したばかりの新同窓生が、気軽に心の拠り所として利用できますことを願っております。

終わりに、東京支部のますますのご発展と、皆様方のご多幸を祈念いたします。

(編注■緞帳の写真は本誌2頁に掲載)

平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会

総会の盛会を祈る!!

旭陵東京三三期生一同

祝

平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会
開催おめでとうございます

旭陵同窓会
会長 前田日出三
(第31期生)



下関西高校 校長メッセージ

山口県立下関西高等学校長
貞末 俊裕

最近の学校の様子 — 今、西高は！

平成19年度旭陵同窓会東京支部総会が盛大に開催されますことに、心からお祝い申し上げます。

また、同窓生の皆様方には、平素から本校教育の推進に物心両面にわたるご指導・ご支援をいただき、特に、平成17年には部活動用マイクロバスを、昨年には新体育館完成にあわせ立派な緞帳・暗幕をと、毎年のようにご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。体育館は昨年7月に完成し、竣工記念行事として10月に文化庁主催行事「オペレッタ」を公演し、生徒たちは本物の舞台芸術を鑑賞することができました。

新体育館で初めての卒業式を今年3月に挙行し、今春も新たに251人の卒業生が同窓会の仲間入りをさせていただきました。本年度は全日制719人、定時制51人の生徒数で順調にスタートしております。

今後は恵まれた教育環境を最大限に活用しながら、自主自律の校風を引き継ぎ、校是『天下第一関』のもと「知・徳・体のバランスのとれた人間形成」をベースに据えつつ、“生徒一人ひとりの進路実現”を目標に、これまで以上に高校3年間を見通した教育活動を全教職員が協働して推進します。

昨年6月の「旭陵文化講演会」では、同窓会のご援助で須磨幸蔵氏（28期生）からご講演をいただき、本年度も6月8日に町田顯氏（32期生）のご講演をいただくことになっています。

今後とも同窓生の皆様方の期待に応えるよう学校運営を推進してまいります。引き続き本校教育の充実発展にご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、旭陵同窓会東京支部のますますのご発展と会員の皆様のご健勝をお祈りします。



旭陵同窓会 幹事長メッセージ

旭陵同窓会幹事長
藤本 正三
(第35期生)

緞帳のお礼と報告

東京支部総会おめでとうございます。

昨年は母校におきまして体育館が新築されました。それに伴って同窓会よりステージに緞帳を寄贈することになり、同窓生のみなさまに寄付をお願いいたしました。特に、東京支部におかれましては、格別に支部として100万円の応募をいただき、大変ありがとうございました。おかげさまで820万円の浄財が集まり、所期の目的の緞帳に加え、体育館内部の暗幕を作ることができました。

デザインは、下段に忠霊塔の桜を、中央に小さな山をたくさんちりばめて風師山を、また全体に波形をあしらって関門海峡をイメージし、オレンジ色を基調に下を濃く、上に淡くぼかして明るく仕上げました。

平成18年8月28日、2学期の始業式に披露して、生徒諸君に説明しました。体育館は700名収容できる設備で、今年は初めて全校生徒の出席する卒業式を行うことができました。下関に帰られた折には、ぜひ母校に立ち寄り、新しい校舎・体育館、緞帳をご覧になって下さい。

また、昨年は母校の文化祭（旭陵祭）で、東京支部の須磨幸蔵先輩に「アイデンティティ」をテーマにご講演いただきました。生徒諸君には大変好評で、素晴らしい講演でした。今年は32期生の町田顯先輩にお願いしております。これからもずっと続けていきたいと思っておりますので、素晴らしい方の推薦をお願いいたします。

（編注■緞帳の写真は本誌2頁に掲載）

新旧幹事代表あいさつ



平成18年度当番幹事代表
木村 康則
(第52期生)

感謝、感謝、そしてありがとう

まず、当番幹事として、支部諸先輩の方々、本部幹部の方々、そして何よりも52期の同期の仲間を支えられて、任期を無事終了したことをご報告し、また多くの励ましをいただいたことに感謝したいと思います。平成18年度支部総会は、例年どおり7月最後の土曜(7/29)に東京ガーデンパレスで開催しました。「あの日に帰りたいー関中、西高がやってくる」をテーマに、恩師先生4名をお呼びし、模擬授業をしました。参加者の皆様には楽しんでいただけたと思います。参加者は286名(目標300名)、うち若手会員46名(同50名)でした。若干の未達でしたが、目的は達成されたと思います(と言わせて下さい)。なお、参加者目標300名は53期が必ずクリアしてくれるものと信じています。

支部講演会を初めて試みました。昨年10月まで最高裁判所長官を務められた町田顯様(旭陵第32期生)に講師をお願いし、今年3月10日に学会館で、「裁判員制度について」ご講演いただきました。初めてのことで、また異動の多い時期で心配もありましたが、100名以上の参加があり、成功裏に開催できたと思います。

これ以外にも、支部WEBの管理、新設された西高体育館の綴帳寄付活動をしました。

1年間、幹事をさせていただいて、予想以上に大変でしたが、それにも増して、様々な経験をさせていただきました。昨年の本誌でのあいさつで「同窓会は擬似体験の場!?!」と書かせていただきましたが、まさにその通りだったと思います。52期の同期をはじめとして、諸先輩方、恩師の先生方、下関の本部の方々、校長先生、若い後輩たちとの交流は、とてもよい経験となり、思い出にもなりました。

今、代表幹事を退任するにあたって、「この1年、いろいろと愉しませてもらった」というのが正直な感想です。今年の53期も張り切って総会準備をしていると聞いています。その総会で皆様にお会いできることを楽しみにしております。1年間、本当にありがとうございました。



平成19年度当番幹事代表
新村 篤
(第53期生)

結集! 旭陵同窓会 世代を越えて

昭和51年に西高を卒業して30余年、今年は我々53期生が当番幹事を務めさせていただきます。行き届かない点も多々あるかは存じますが、ご支援、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

昨年、総会前に52期生幹事より突然の連絡をいただき、次年度幹事は総会に出席して決意表明をしなければならないとのこと。困った…まずは同期生に連絡を…、から始まった幹事団ですが、昨年の総会には十余名が参加し、また、この3月に開催した講演会には、52期生と合同で幹事役を務めたことで、徐々にモチベーションも高まり、毎月の幹事会では、ああだこうだと意見を戦わせ盛り上がっています。

ある雑誌記事によると、年次別にタイプ分けができるようで、我々の代は「コインロッカー型」だそうです。一見小ぢんまりとして画一的だが、コインロッカーのように、詰め込んでみると意外と何でも入ってしまう。我々幹事団も、意外な力を発揮して、役目を果たしたいと思っています。

今年のテーマは、「結集! 旭陵同窓会 世代を越えて」です。世代は違えど、故郷での最も多感な3年間を共有した私たち同窓生が、ここ東京の地で、旧交を温め、さらには世代を越えた新たな交流のきっかけの場となるような同窓会であり続けたいと思います。

私もこれまで、同窓会には疎遠でしたが、当番幹事を担当したことで、総会や講演会、ゴルフ会などを通じて、多くの先輩・後輩と知り合いました。仕事の付き合いでは、信頼関係を築くまでに多くの日数が必要ですが、同窓会では、総会に参加したその日から信頼のおける仲間として接してもらえます。世代を越え、お互いに気を許して本音でモノの見方、考え方を語り合うことができるのは、同窓会ならではでしょう。

三〇年の時を超えて

中尾 光宏(国語)



旭陵同窓会第五三期のみなさん、お元気ですか。西高卒業後三〇年、高卒後三〇年、年齢(よわい)も五〇に垂(なんな)んとして人生の最盛期、それぞれのお立場で活躍のこことと推察いたします。

私は、一八年間お世話になった西高を昭和五四年三月に離任し、以後、県教育委員会や県下各高校を転々とした後、平成九年三月、県立宇部高等学校を最後に公職を退きました。その後、梅光女学院大学(今は男女共学になり、梅光学院大学に改称)にお世話になり、現在は学院事務局に勤めております。一八歳人口が減少期に入った今、地方の私立大学では学生募集に苦慮しております。

さて、三〇年前にタイムスリップしてみますと、三年次は六組理科の担任であったことが思い出されます。比較のおとなしいクラスでしたが、よく勉強し、医学部進学者が多かったと記憶しております。

この総会では、卒業後、初めてお会いする方も多いと思いますが、五年前であったでしょうか、唐戸の下関グランドホテルで開催された、「二五年目の授業」と銘打った催し(五三期の同期会「編注」)に招かれ、古文の冒頭文を中心に、授業の真似事をしたことが思い出されます。どなたの発案であったかはわかりませんが、五〇名を超える同級生の参加を得て、懐かしいひとときでした。

このたびは、旭陵同窓会東京支部総会にお招きをいただき、ありがとうございます。支部総会が盛会裏に執り行われ、思い深い総会になることを祈念いたしております。

ピアニスト 大石 学 とともに

友永 次郎(音楽)

何と、今年の東京支部総会に中尾光宏先生・西田昇先生と私を招待してくださいとのこと、正直嬉しくてたまりません。皆さんに会える喜びはもちろんのこと、道中から幹事の皆さんの話題で盛り上がることも間違いありません。

昨年は、皆さんの担任だった小川陽一先生、そしてピナタこと下田衛先生が逝ってしまわれました。先輩方の訃報を聞くたびに、「自分はあと何年だろう」と、「その時」を考えます。「その時」は突然であつてほしい。日々を悔いを残さないようにと思いつつながら、仕事も原稿も締め切りまで腰が揚がらない私ですが、あっさり逝きたいものです。

今年の総会ゲストに、皆さんの後輩であるジャズピアニストの大石学氏を推薦しました。彼は小・中学校と日本のエレクトロンのタイトルを総なめにし、西高に入ってきた鬼才ですが、「ピアノがないよ」「アコースティックな世界が深いよ」と少々誘導したり、本格的にピアノにとりくみだしたら、「右指三本しか使っていないよ」とか。教えるとはいえず、こんな世界的な人に何とストレートな言葉だったのだろうとずつと頭のどこかに残っていました。ところが、彼はあるライブのスピーチで「当時は若くて頭にきていたけど、四〇歳を過ぎてあの言葉が身に染みる」と言ってくれました。長年のつかえが下りたような気持ちでした。

無鉄砲な私を西高の皆さんが育てて下さったことを本当に感謝しています。「人生の八〇%は人との関わり」と皆さんに言っていました。自分自身を確認しているこの頃です。

(写真は、昨年ロンドンからニューヨークに転動した娘家族と)



小金治二三年ぶりに下関西高の教壇に立つ

西田 昇(社会)

平成一七年四月、二三年ぶりに下関西高の教壇に立ちました。中央階段の大時計もなく、校舎も新しくなっていました。懐旧の想いで胸がいっぱいになりました。今日は近況報告としてその時のことを少し書きます。

まず、担当した三クラスとも元気のいい女子学生が半数を占めているのに驚きました。運動部をはじめ部活動が活発になっていることも報告したいことの一つです。

学習意欲に燃えた若者との学校生活は実に楽しく充実したものでした。「倫理」を担当した三年生のクラス

担任が英語の小田逸子先生(五一期)生徒指導は早田先生(五四期)、私のカウンセラーは山陰のプレスリ

ーと言われていた天尾先生(五九期)、親子で私の授業を受ける運命になったT君や、お父さんに似てなくて幸せそうなFさん、君のお父さん小柄だった君は一八〇cmはあるねーY君、などなど：

一年間であつという間に西田こと「小金治」は完全に若返り、少し残った退職金でハーレーを購入、生徒達にも披露しました。現在は中尾先生、友永先生と梅光学院大学でがんばっています。休日にはツーリングを満喫しています。下関に帰省された際はぜひお立ち寄り下さい。

旭陵同窓会のみならずのご隆盛、山口県立下関西高等学校のさらなる飛躍をご祈念申し上げ、近況報告といたします。





体育館竣工記念行事 オペレッタ公演



2006年7月の新体育館の竣工を記念して、日本オペレッタ協会の公演「シュペルトの青春—三人姉妹の家—」が、10月20日に新体育館を会場として上演されました。

この舞台は、文化庁主催事業「本物の舞台芸術体験事業」（学校公演）によるもので、生徒たちが優れた舞台芸術に身近に触れることにより、芸術を愛する心と豊かな情操を養うことを目的としています。

さらに、この事業では、舞台芸術を鑑賞するだけでなく、公演団体による事前の実演指導やワークショップを通して本番当日の舞台で公演団体と共演するなど、生徒が直接に舞台公演に参加することが特徴です。

本校においても、公演に先立つ7月12日に、日本オペレッタ協会の会長と関係者が来校され、ワークショップが行われました。全校生徒を対象にしたオペレッタおよび公演演目の説明や、音楽部担当者と本校吹奏楽部、合唱参加者との共演演奏曲目の打合せ、舞台監督と美術部・演劇部との劇中セット制作についての説明があり、生徒は公演に向けて期待を膨らませてきました。

10月20日の公演当日は、朝7時からオペレッタ協会スタッフと設営補助担当の生徒たちが体育館への舞台装置の搬入に取りかかり、2時間後、ふだん授業や部活動で使用する体育館は19世紀のヨーロッパにすっかり様変わり。13時、鳴り響く鐘の音とともにオペレッタは幕を開けました。

生徒は2時間の公演の間、すばらしい歌声に聴き入り、オペレッタ協会のアンサンブルと共演する吹奏楽部の演奏や合唱に拍手を送り、また、美術部・演劇部共同制作によるライラックの木は、舞台においてシンボルツリーとしてその存在感を十分に示していました。生徒の多くはオペレッタという舞台芸術に初めて触れ、本物の舞台が持つすばらしさと迫力に感動する貴重な体験となりました。

(下関西高等学校通信「天下第一関」2006年11月20日、転載に当り一部編集)

アジアの将来を語ろう —アジア青少年リーダーサミット

2006年7月16～30日、アジア青少年リーダーサミットがシンガポールで開催されました。アジアの6か国（シンガポール・マレーシア・インド・サウジアラビア・中国・日本）の学生がシンガポールに集まって交流し、アジアの将来の政治的・社会的リーダーとしての関心を高めるために、今年初めて開催されたものです。

参加した生徒は、英語力だけでなく、アジアの一員として日本はどう見られているのかなど、いろいろなことを勉強してきました。

シンガポールで感じたこと

百合野 直輝

アジア青少年リーダーサミットの参加者としてシンガポールに2週間滞在しました。

まず感じたことは、やはり文化の違い。様々な異文化に触れることができました。それは衣食住のすべてに言えることで、まさに別世界でした。

また、シンガポールは中華系、マレー系、インド系などのいろいろな民族が暮らしている複合民族国家で、たとえば、仏教系とイスラム教系の寺院が隣り合っています。いろいろな文化が混在していることが不自然でないということは、この人々が互いの文化を認め合い尊重し合っているからでしょう。

シンガポールの人に限らず、サミットに参加していた他の国の学生たちも自国の文化を大切にしていました。私も外国にいるからこそ、日本をいつもとは違う視点で見ることができたと思います。今日、日本では固有の文化や伝統で、失われたり薄れてしまったりしているものがあると言われていますが、サミット参加者の学生との会話は、私に日本の文化を再認識させてくれました。

このサミットを通じていろいろなことを学び、日常生活では体験できないことを体験することができました。同じアジアに生きる一人の人間として、これからも彼らとの親睦を深めていきたいと思います。

(「西高PTA新聞」2006年11月22日、転載に当り一部編集)



囲碁将棋部 総合文化祭囲碁部門大会対戦記

安藤裕介

2006年8月5～6日に開催された全国大会は、個人戦と団体戦に分かれていました。男子個人戦・女子個人戦は、各都道府県から男女1名ずつ、さらに地域枠で京都府から男女1名を加えた、計48名ずつで競います。団体戦は、各都道府県から男子2名と女子1名ずつ、および個人戦と同じように京都府から地域枠で男子2名と女子1名を加えた計144名、48組で競います。

私が出場したのは団体戦で、男子2名が大将と副将、女子1名が三将になり、勝敗に関わらず6対局（各対局の持ち時間は40分間）を行い、総合結果で順位が決定するという対局形式でした。総合順位はあまりよくありませんでしたが、私個人としては6対局3勝3敗と、まずまずでした。

囲碁の団体戦は、他の競技の団体戦に比べて、個人戦とあまり変わらないように思われがちですが、実際は違います。仲間のために、どんなに劣勢でも投了（最後まで打ち切らずに負けを認めること）せずに、最後まで打ち切ると

いう責任の重さが、個人戦とは全く異なっています。それによって、対局の中には相手の不注意で逆転するものもあり、それが団体戦のおもしろいところでもあると思います。

私は、全国大会に出場したことで刺激を受けて、精神や技術を向上させるよい経験になりました。大会から一か月半ほど過ぎ、少し強くなった今のように大会でも打つことができていたならと思うことがあります。また、今までに一度もこのような大きな大会に出たことがなかったので、緊張して冷静さを欠くという、これからも囲碁を打ってゆくうえで反省すべき点があり、自分自身を考え直すよい機会になったとも思います。

これからも日々精進したいと思います。

（「西高PTA新聞」2006年11月22日、転載に当り一部編集）



他支部からの便り

山口支部の最新情報

旭陵同窓会山口支部幹事長
河村 祐一
(第55期生)

旭陵同窓会山口支部は、現在、民間・県庁・県警・県教委などの会員320余名を有しています。

年1回総会を開催し、会員間の懇親を深めています。昨年は7月22日、本部から片野副会長、藤本幹事長を、母校から貞末校長をお迎えし、特別会員である石崎幸亮山口県議会議員および榎屋敬悟衆議院議員とともに、山口市内において50名の会員で盛大に18年度総会を開催しました。

平成19年度の始まりにあたり、山口支部として喜ばしい出来事が2つありました。ひとつは、先に行われた山口県議会議員選挙において、石崎先輩が見事8度目の当選を果たされました。これは再選された議員の中で最多の当選回

数です。引き続き活躍いただきますようお願いします。

もうひとつは、県庁の4月人事異動で3人の部長を輩出することができました。小田由紀雄（第45期生）が地域振興部長に、松永正実（第45期生）が農林水産部長に、岡田実（第46期生）が総合政策部長に就任し、県庁にある8つの部のうち3つの部のトップを下関西高出身者が占めることになりました。

さらに活動を盛り上げていきたいと思っておりますので、各支部のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。



旭陵同窓会本部・各支部連絡先

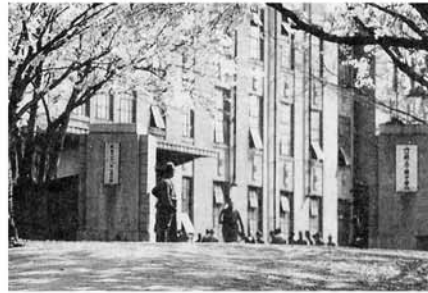
支部	氏名	〒	住所	電話
本部	小田 修子	751-0826	下関市後田町 4-10-1 山口県立下関西高等学校	0832-22-0892
仙台支部	梶畑 通男	981-3213	仙台市泉区南中山 3-4-18	022-376-2346
東京支部	藤川 幸久	123-0865	足立区新田 3-36-2-709	080-3468-4433
東海支部	田川 哲哉	464-8603	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院工学研究科	052-789-3577
関西支部	杉 顕紹	663-8171	西宮市甲子園一番町 4-1-215	0798-47-9148
広島支部	松隈 清次	739-1742	広島市安佐北区亀崎 1-34-22	082-842-6243
山口支部	河村 祐一	753-0095	山口市木町 1-38 二の小路北棟103号	083-923-4727
とようら会	市村 達也	759-6301	下関市豊浦町川棚中央 6895-1 下関市役所豊浦総合支所税務課	0837-72-0611
福岡支部	大崎 祐司	816-0814	春日市春日 8-38-2	092-596-7827

旭陵史年表

- 1920(大9) 下関市立下関中学校開校
- 1923(大12) 県に移管。山口県立下関中学校と改称
- 1924(大13) 校内寄宿舎竣工
- 1926(大15) 校歌・校旗制定
- 1927(昭22) 同窓会成立。第1回總會
- 1929(昭4) 校内寄宿舎閉鎖
- 1930(昭5) 新校舎(鉄筋コンクリート3階建)竣工
- 1932(昭7) 図書館(のちに旭陵館と命名)落成式。
校内食堂開設
- 1939(昭14) 「魚さん」経営による食堂開始
- 1940(昭15) 職員一同が国民服を制服とし、海軍帽を制帽として着用
- 1944(昭19) 学徒勤労動員の通年実施が命令され、教室授業ほとんどできず。米機初空襲、砲弾落下、運動倉庫の屋根を貫く。
- 1945(昭20) 学校授業1年間停止を決定
- 1948(昭23) 県立下関第二高校と統合し県立下関西高校と改称。通信教育部開設。生徒連盟結成
- 1949(昭24) 新制高校統合。男女共学・学区制再検討
- 1950(昭25) 県立下関西高等学校と県立下関南高等学校を統合し、県立下関西高等学校を設置。定時制夜間部と定時制黒井分校を設置。
- 1951(昭26) 東部分校を県立下関東高等学校に移管
- 1953(昭28) 補習科設置
- 1954(昭29) 2校舎を分離・独立し、それぞれ下関西高、下関南高となる。
- 1955(昭30) 校旗完成
- 1957(昭32) 給食実施開始
- 1959(昭34) 図書館改築竣工落成式
- 1960(昭35) 同窓会東京支部発会式
- 1961(昭36) 同窓会関西支部発会式
- 1962(昭37) 同窓会宇部支部発会。新校歌成立。定時制黒井分校が全日制課程を設置
- 1963(昭38) 通信教育部は山口高に移籍。本校は協力校となる。同窓会広島支部発足
- 1968(昭43) 体育館兼講堂竣工。プール・更衣室完成(同窓会創立50周年記念事業)
- 1969(昭44) 校内食堂廃止。同窓会広島支部発足
- 1970(昭45) 理科棟竣工。理数科設置。
- 1973(昭48) 校内弁当のチケット販売
- 1974(昭49) 第二運動場完工
- 1977(昭52) 同窓会山口支部設立
- 1980(昭55) 響分校が独立し、県立響高等学校に
- 1981(昭56) 校舎改築工事着工
- 1982(昭57) 旧校舎解体
- 1983(昭58) 補習科閉鎖。同窓会東海支部設立
- 1984(昭59) 校舎改築竣工
- 1988(昭63) 同窓会豊浦支部・仙台支部創設
- 2003(平15) 同窓会ホームページ開設
- 2006(平18) 新体育館竣工。同窓会から綴帳寄贈

戦災 1944(昭19)年6月15日

関門北九州に初めて米機が襲来。本校運動具倉庫の屋根を銃砲弾が貫通したと伝えられたが、実は迎撃した高射砲の破片だった。これ以後、度々、空襲の恐怖にさらされる、翌年7月には旭陵一帯が火の海と化する。授業は中止、生徒は勤労動員へ。卒業生の多くが徴兵され、戦場に散った。



衛兵の立つ関中校門

校名の由来 1949(昭24)年

学制改革によって下関高校と下関第二高校が統合され、下関西高校と改称された。下関女子高校(旧下関高女)も下関南高校と改称。当初、わが校は「下関高校」とする意見が強かったが、下関女子高校も同一校名を主張したため、校舎の位置関係で西・南と決められた。なお、豊浦高校と長府高校が統合され、男女共学の下関東高校となった。

南高との統合と分離

1950(昭25)年、下関西高と下関南高は統合されて下関西高校となり、建物はそれぞれ北校舎、南校舎とされた。北校舎の男子生徒の一部が南校舎へ、南校舎の女子生徒の一部が北校舎へ移って共学となった。しかし、県の財政事情で全生徒を一校舎に収容できないことを理由に、1954(昭29)年、再び西高と南高に分離された。両者とも共学が原則とされ、西高はしばらく数名ずつながら女子の入学が続いたが、南高は男子が入学しなかった。



共学下初の修学旅行(南校舎3年1組)

甲子園出場 1951 (昭26) 年

西高野球部は山口県予選、山陽大会を勝ち抜き、夏の甲子園 (全国高校野球大会) に出場した。1 回戦は不戦勝、2 回戦は 4 対 0 で大分鶴崎高校を降したが、3 回戦で埼玉熊谷高校に 0 対 4 で敗れ、準々決勝進出はならなかった。



甲子園初出場、堂々の入場行進

補習科の誕生と廃止

1953 (昭28) 年、浪人学生のために先生方が補習科を開設された。この教室をステップ台にして羽ばたいた者も多い。しかし、時代の流れとともに下関市周辺にも予備校が増加し、1983 (昭58) 年度には生徒数20名までに激減。ついに同年12月17日、31年の歴史を閉じた。

新校歌誕生 1962 (昭37) 年

現在の西高校歌「風師山さ霧晴れ行き」が発表された。作詞は万葉集を中心とする上代文学研究者の五味智英 (当時、東京大学文学部教授)。作曲は日本洋楽界を代表する作曲家だった平井康三郎。

ブラバン全国征覇 1976 (昭51) 年

吹奏楽部が全国学校合奏コンクールで全国最優秀となった。曲目はリストの「ハンガリア狂詩曲第2番」。指導は友永次郎先生だった。



出典 ■ 「旭陵史」 (創立75周年記念誌)



平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会

総会の盛会を祈る!!

昨年のご協力ありがとうございました

平成18年度東京支部幹事一同 (52期)

翔洋法律事務所

弁護士 **山城 昌巳**
(35回生)

〒106-0032
東京都港区六本木7-15-17二六本木ビル10F
Phone: (03)3403-9042 FAX: (03)3403-1497


祝! 平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会

◆住友不動産販売(株)
上田 隆実(48期)

〒104-0031
東京都中央区京橋1-1-1(八重洲ダイビル)
TEL: 03-6225-4731 FAX: 03-3231-3352
url: http://www.stepn.co.jp

祝
平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会

盛会を祈っています!



51期 東京地区同期会一同

伊藤内科医院


内科・循環器科
呼吸器科・胃腸科

院長 **伊藤 肇** (33期)

下関市稗田北町13-36
TEL: 0832-53-2040

平成19年度
旭陵同窓会東京支部総会

総会の盛会を祈る!!



東京支部44期下関ゆかり会



株式会社 サン・ステップ

大切な資産
いま、所有から活用へ

代表取締役
社長 **亀山 征夫** (37期)

●本社
160-0022東京都新宿区新宿2-19-1
ビッグス新宿ビル4F
TEL 03-3350-8731 (代)
URL <http://www.sunstep.co.jp>

麴町総合法律事務所

弁護士 **竹内 俊文** (41期)

〒102-0084 東京都千代田区二番町11-10
麴町山玉マンション606号室
電話 (03)3288-0481(代)
FAX (03)3288-0480



各期生からの便り

誠実に生きる

栗明 純生 (第46期生)

私は西高の二年生まで医者志望だった。ある秋の日に先生に説得され、東大の法科に志望変更したら、あの東大紛争で入試が中止となった。一浪の未入学して、ほどなく法律に何の興味もないことが分かり、がく然としたが手遅れだ、バイトで苦学し、何とか公務員試験にはパスしたのに、何の因果か



野村證券に入った。

成績がよかったので法務部に配属され、しかも米国のロースクールへ留学させられた。何という皮肉だ。

修士号を取って、帰国にあたり、法務部だけは勘弁してくれと懇願したら今度は主計部、会計をやらされた。法律よりもさらに嫌いだったが喰うため

だ、必死にやったら異色の経歴が買われ、何と10年間も留められた。

娘にバイオリンを習わせたらとにかく金がかかる。やむなく外資に転じた。ロースクール卒の経歴が買われ、法律関係の職を得た。20年ぶりの英語と法律に悪戦苦闘しているうちに、いつの間にかこの分野の草分けと目されるようになり、国内外のヘッドハンターから盛んに声がかかるようになった。請われるままに転職していたら、もう4社めになった。

私は大成功はしなかったが、不況を知らない。この「失われた10年」にも小石川、神楽坂に住んで楽々と過ごした。振り返ってみて一つだけ、誠実に仕事をする心は心がけた。後輩の皆さんにもこれだけはお勧めしたい。現在の心境を短歌にすればこんな感じだ。

戦いの日々は過ぎたり

ここよりは見るかす白き花ばかりなる

超高速計算機と天文学

戎崎 俊一 (第54期生)

現在、理化学研究所に主任研究員として勤務し、超高速計算機の開発と天文学の研究をしています。天文学においては、手が届かない天体が研究対象なので、コンピュータによる数値シミュレーションの役割が重要です。特に、天体の間に働く重力を高速に計算することが必要で、そのための専用計算機GRAPEの開発を始めました。それがきっかけになって、計算機のハードウェアを作るようになりました。

その原理を応用して、分子の世界で重要となる静電力の計算を高速に行う計算機や、行列演算を高速に行える計算機などを開発しています。これらを使って、銀河でブラックホールがどのようにできるかとか、酵素であるたんぱく質分子がどのよう

に分子機械として働くかとかの研究をしています。最近、宇宙からやってくるとつもなく高エネルギーの荷電粒子を観測するための望遠鏡を作って、現在建設中の国際宇宙ステーションに搭載するプロジェクトの取りまとめをやることになりました。研究対象が拡散してパンク気味ですが、好きで入った科学研究の道です。楽しく毎日を過ごしています。

このようにいろんな分野で研究の仕事を何とかこなせるのも、下関西高時代に身につけた本の速読法と勉強方法のおかげかもしれません。また、先輩・同輩・後輩が各方面で活躍されていて、思わぬところで出くわして、励まされたりすることが多くあります。心強い限りです。



ピアニスト 大石 学 (第59期生)

(文・友永次郎)

大石学のピアノにはドラムは要らない。ベースもなくていい。純粋にピアノソロが感動的だ。まるで二人が弾いているように聴こえる。冷静な左手のリズムとコード。対照的な右手は火のような情熱的で全く割り切れない7連音符、9連音符が、エッジを起こして急斜面を滑走するスキーのように、登りつめるかと思えば、突然、振り返るようにセンチメンタルな叙情性を歌う。その間、左手のタッチは見事に抑制されて美しい。両手が全く影響を受けない。何度聴いても素晴らしい。

ダンパーペダル（音を伸ばすために足で操作するペダル）を決して使わない。いや使わないわけではなく、使いすぎず見事に制御したペダルシフトだ。ペダルを第三の手として音楽に繊細な味を利かせている。

一曲目を聴いたとき、ショパンのブーレーズ（子守歌）を思い出した。最後まで同じ左手のコードに、右手が四分音符から始めて12連音符と激しくなり、やがて閉じてくる。人生の終演を癒す子守歌のような晩年のショパンの名曲だ。大石はジャズであるが、即興性はショパンと変わらない。魂の

歌とテクニック、計算と構成され尽くしたインプロビゼーションなのだ。

クラシックのピアニストにもこれだけ美しいタッチの演奏家は少ない。最後に私に宛てた便りの一部を紹介しよう。

* * *

次郎先生元気ですか。8月末に初のソロピアノのCDを出します。8枚目にしてやっと自分の世界を表現できた気がします。クラシック・jazz・ゴスペル・ブルース・ロックと、20才からピアノで仕事を始めて24年間やってきた事が、全てこのCDに出ています。（中略）

ソロピアノのレコーディング中、ペダルを使わないコロコロとしたタッチで弾いていた時、これは次郎先生がぜったいに喜んでくれる音色だと確信しました。マスコミがもっとこのCDを宣伝してくれればと思います。たぶん日本でこのレベルのソロCDは、初めてだと思っています。

同窓会でjazzを知らない人にも聴いてもらえるのを楽しみにしています。

大石 学





世を越えて…第53期生と東京支部総会

松尾 正 (第53期生)



東京の同期から、「旭陵倶楽部17号」への寄稿の依頼がメールで届きました。旭陵倶楽部という言葉に何となく懐かしさを感じ、なぜなんだろうと想いながらその理由を考えました。そして、忘れかけていた思い出が蘇ってきました。

我々53期生が、本部の当番幹事だった1991年に、37期の先輩たちが今の53期と同じように東京支部総会の当番幹事で、その年に旭陵倶楽部は創刊されました。37期の竹長先輩が、翌年の支部だよりに「東京支部総会」当番幹事・顧末記を書かれています。53期としてもこの時のことを少し書き残しておこうと思います。

この年の東京支部は、支部長が18期の吉田先輩で、総会は

品川「三菱開東園」で開催されました。37期の先輩たちは、旭陵倶楽部を発刊され、なおかつこの支部総会のアトラクションを模索されていました。そして本部同窓会総会にて我々53期制作のスライド「我々は∞」に感動され、ぜひこれを東京支部総会のアトラクションに持ってきてほしいと要望されました。

その後、東京支部総会までのわずかな時間で、本部の総会とは異なった東京バージョンを作成して、下関の同期10名とともに東京支部総会にスライド上映のため参加させていただきました。吉田支部長、37期の先輩方に温かく迎えていただき、多くの東京の先輩たちと見たスライドは、我々53期にとりまして心に残るものとなりました。

今、東京の53期がその時の37期の先輩と同じ立場に立っています。世を越えて、その繋がりがますます続いていくことを願って、下関からの便りとさせていただきます。

三つ子の魂百まで

原田 資嗣 (第53期生)

北ドイツの州都ハノーバーで生活するようになって、今年で27年になります。ピアノの勉強のため下関、東京、ウィーン、ニューヨーク、ワルシャワを経て最後にたどり着いたのがここで、約30km離れたヒルデスハイムの大学で教育学部と芸術学部の学生にピアノを教えるかわら、演奏活動を細々としています。これまでの経験から、最近特に思うことは、「三つ子の魂百まで」ということです。

ドイツ人の性格は、日本人と似たところが多い反面、個々のパーソナリティーを尊重し、個人主義が発達しています。その弊害として、他人と共同で仕事をするのが苦手なドイツ人が多いと感じています。会議などでもそれぞれの主張が強く、日本風と言えば自分勝手に、まとまらないことがしばしばです。この違いはどこから来るのでしょうか。ドイツでは、一般に日本の学校給食や放課後の教室の掃除などのシステムがなく、子供が共同で分担し合い、仕事をする訓練が日常でされていないからかもしれません。

音楽教育は、他国の子どもたちが3～5歳で始めるのに対し、小学校に入学してから楽器を習い始めるのが一般的です。母国語を習得するように早期に開始しないことが、現代のドイツの教育水準が世界から取り残されている大きな原因の一つだと思います。



先日、たまたま衛星放送で、韓国のアリランという放送局のクイズ番組を観ました。韓国の5～6年生(クラス単位で出場していた)がアメリカ人の出す英語の問題をすべて英語で答えていましたが、番組内容の水準の高さに驚かされました。西高時代、朝礼で校長先生が英語の単語を3000語暗記せよと言われていたのを思い出します。国際社会では、3000語が会話でも自由に使いこなせ、少なくとも3か国語が話せるような早期教育システムが日本でも必要ではないでしょうか。この点では、地域の特性上、ドイツの方が進んでいます。

卒業してから、はや…

日高 (国方) 朋子 (第53期生)

大学在学中に独学で人形を創り始めて数十年が経ちました。ふだんは関東を中心に活動していますが、昨秋、母のことを考え、下の娘の大学進学を機に、初めて下関の長府庭園・蔵ギャラリーと旧英国領事館で個展を開きました。

離れて久しい下関ですが、西高の先輩方や同期の友人、旧知の方々、また地元数社のマス・メディアの非常に熱心なご支援のおかげで、3,000人近い入場者に恵まれ、連日大盛況でした。会場には中学・高校時代の先生方や同窓生、そのご家族までご来場下り、期せずして同窓会のような状況になりました。

予想をはるかに超えた素敵な出会いや再会があった今回の個展をきっかけに、再び下関を身近に感じるようになり、やはり下関は私の原点であることを再確認しました。離れていても故郷は優しく温かい…ですね。

いつもそうですが、人形は、制作者の私ですら想像できないほどの素晴らしい出会いをもたらし、世界を大きく広げてくれます。今後もさらなる出会いを楽しみに、オリジナルな創造を続けてゆきたいと思っています。



長府庭園での個展風景 (2006年10月)



作品「風の径」



旧英国領事館での個展風景 (2006年11月)



東京支部講演会報告

裁判員って何？

木村 康則 (第52期生)

旭陵同窓会東京支部活動の一つとして、昨年10月まで最高裁判所長官を務められた町田順様 (第32期生) に講師をお願いし、講演会「裁判員制度について」を、3月10日 (土) の午後、学士会館にて開催しました。また、講演会后、会費制の簡単な懇親会を開きました。

講演会では、町田講師から、まず裁判員制度に関する概略説明があり、その後、最高裁作成のビデオを観て、具体的な事例を使った説明がありました。ビデオの内容は放火事件の犯人に対する量刑 (実刑か執行猶予か) を決めることでした。途中でビデオを止めて、町田講師が、聴講者に挙手を求めま



した。会場は執行猶予派が多かったのですがビデオでは実刑でした旭陵同窓生は寛大な人が多いのかなと思いました。

その後、ビデオ内容の解説 (なぜ実刑なのか)、および日本での犯罪の統計などに関する説明を聞きました。

ついで、質疑応答に移りましたが、「希望して裁判員にならないのか」と質問された会員が多く (裁判員は完全な抽選で選ばれます)、少々驚きました。活発な質疑応答で、時間がなくなってしまって、続きは懇親会でという幹事の不幸もありました。

今回の講演会は、白井支部長のご提案もあって、初めて開催しました。3月の異動の多い時期でしたが、100名以上にご参加いただき、成功裏に開催できました (参加された方々、これでもういつ裁判員に抽選で当たっても大丈夫ですね)。

この種の講演会を毎年開催するのは大変かもしれませんが、例えば、支部総会当日の午後の遅い時間から開催して総会につなげるなど、工夫の余地はあると思います。講師も会員、聴講者も会員ですから、会員同士の情報交換、意見交換の場という位置づけでよいのではないかと思います。

最後に、大任を終えられた直後にもかかわらず、講師を快諾していただいた町田先輩に今一度感謝したいと思います。今回の支部講演会開催の試みが、今後の支部活動の何かの役に立てればと願いつつ、ご報告とさせていただきます。



旭陵ゴルフ会

ゴルフを通して知りあえた旭陵同窓会の人脈

磯部 弘志 (第57期生)

私は、約10年前に今の仕事に転職したのを機会に、同窓会関東地区の57期代表幹事を友人から引き継ぎました。代表幹事になったのだから夏の同窓会総会には参加せねばと思いつつ、「だれも知っている人もいないし、なんだかつまらないな…」。こう考えるのは私だけでしょうか。

そこで、総会に自分自身が参加したくなるようにしようと考えました。

ひとつは、自分たちの同期会を発足することです。同期会は名称を「東行会」と名づけ、10年前から活動しています。

もうひとつは、同窓会の諸先輩と親しくなることです。そのためには、共通の趣味を持ち、ともに楽しい時間を過ごすことだと思い、腕前も省みずゴルフ会に参加させていただき、今では事務局として会運営のお手伝いをしています。同じ組でプレーしていると話す機会が多く、会を重ねるごとに諸先輩と親しくさせていただき、多くの人脈をつくることができました。ゴルフ会に参加してからは、夏の同窓会総会の参加が楽しくなりました。

旭陵ゴルフ会は、「上下手は関係ありません。“あるが

ままに”の精神でゴルフを楽しみましょう」をモットーに、会則第2条に「本クラブは、ゴルフ大会を通じて広く同窓生同士の親睦を図り旭陵同窓会東京支部の発展に寄与するものである」を掲げ、活動しています。大会は年2回。春大会は5月、秋大会は10または11月です。本年度は5月19日に春大会 (第26回) を故中部銀次郎 (第37期生) 先輩が設計された久慈ガーデンゴルフクラブにて開催しました。秋大会は10月20日に取手の利根パークゴルフ場で開催予定です。同窓会のホームページにも掲載されています。多くの同窓生の皆様にご参加いただき、世代を越えた親睦を深めましょう。



旭陵同窓会東京支部

平成18(2006)年度活動報告

1. 東京支部総会の開催
平成18年7月29日(土) 18:00~20:00
東京ガーデンパレス(御茶ノ水)
参加者: 286名(有料参加者225名/20代会員46名/来賓8名/南高・同伴7名)
2. 常任委員会の開催
平成19年3月10日(土) 学士会館
3. 東京支部会員名簿の整備
4. 広報活動
支部会報「旭陵倶楽部」を発行(平成18年6月)
5. 支部ホームページ作成
Web委員会に参加し、維持・更新に努めた。
6. 本部・他支部との交流・親睦
6月の本部総会、下関南高校東京支部総会に出席
7. 寄付、広告
支部会報作成、支部総会開催のため、広告550,000円、寄付1,162,000円
8. 同窓会本部への寄付
母校体育館の新築に伴う綴帳寄付のため、1,114,802円を寄付(東京支部余剰金950,000円、52期幹事団100,000円、総会参加者64,802円)
9. 郵便口座開設に伴う支部規約改正の経緯説明
10. 講演会(3/10)の開催「裁判員制度について」
講師: 第32期生 町田 順 氏(前最高裁判所長官)
11. 新役員候補者の選出(平成19年度総会へ提案)

平成19(2007)年度活動計画

1. 平成19(2007)年度東京支部総会の企画・準備・開催
2. 会報「旭陵倶楽部」第17号の発行
3. 支部会員名簿およびEメールアドレスの整備
各期の世話人を起点とした連絡網を整備します。
4. 支部ホームページのメンテナンス
WEB委員会を設けて支部公式ホームページの運用管理にあたります。メールマガジンを活用します。
5. 本部、他支部との連携と交流

【年会費振込のご案内】

この年会費は、本会報の制作費および総会案内に関わる諸経費、郵送費等に使われます。
同封の払込取扱票にて、お近くの郵便局でお払込み下さい。

★年会費 : 2,000円

【ご寄付のお願い】

各界でご活躍の先輩諸氏のご好意とお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

★寄付 : 一口5,000円より

<振込先> みずほ銀行 東京中央支店

普通預金 : 1 8 9 9 2 5 6

口座名義 : 旭陵同窓会 東京支部

支 部 長	○木 下 陽 三 (35期生)	常 任 委 員	江 川 洋 (24期生)	常 任 委 員	梅 田 晴 正 (44期生)
副支部長	○倉 重 英 樹 (38期生)	〃	湊 和 夫 (27期生)	〃	三 宅 晴 久 (45期生)
顧 問	田 口 武 平 (18期生)	〃	西 村 明 充 (28期生)	〃	栗 明 純 生 (46期生)
〃	安 西 喬 (19期生)	〃	松 永 幸 雄 (32期生)	〃	西 真 慶 (47期生)
〃	村 岡 二 郎 (20期生)	〃	山 時 司 (33期生)	〃	上 田 隆 実 (48期生)
〃	須 磨 幸 蔵 (28期生)	〃	島津屋 龍 (36期生)	〃	森 脇 敏 和 (49期生)
〃	西 本 正 (31期生)	〃	貞 国 哲 雄 (37期生)	〃	門 前 孝 志 (50期生)
〃	吉 井 溥 (32期生)	〃	萩 谷 誠 美 (38期生)	〃	有 川 起 巳 (51期生)
〃	和 田 一 雄 (33期生)	〃	山 本 浩 巳 (39期生)	〃	○木 村 康 則 (52期生)
〃	○白 井 哲三郎 (34期生)	〃	高 田 道 治 (40期生)	会 計	山 城 昌 巳 (35期生)
常任委員	有 田 孝 久 (21期生)	〃	竹 内 俊 文 (41期生)	会 計 監 査	吉 川 順 一 (42期生)
〃	池 田 治 郷 (21期生)	〃	土 野 耕 二 (43期生)		(○印は新任)

東京支部のホームページでお待ちしています



旭陵同窓会

KYOKURYO ALUMNI ASSOCIATION

Copyright 2003 Kyokuryo Alumni Association. All rights reserved.

同窓メールマガジン
メールアドレス登録

www.kyokuryo-dosokai.com

インフォメーション Information

トップページ | ワード検索 | 管理ページ

第22回 旭陵ゴルフ大会のご案内 旭陵ゴルフクラブ会員 各位 - 2007/03/26(Mon)

旭陵ゴルフクラブ幹事一同

拝啓

早晩の候、皆様にはいよいよ清塚の段、お慶び申し上げます。長年ゴルフ会をお楽しみいただき、誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。ご多用のところ恐縮に存じますが、同様の旨を御願い申し上げます。

敬具

お手紙ですが、皆様様々との都合がございましてメールまたはFAXにて、4月28日まで参加予定の届出は、5月10日までに組み合せ資料を送付いたします。

記

開 催 日: 2007年 5月19日(土曜日)

ゴルフ場: 久慈ガーデンゴルフクラブ (旧 久慈大洋ゴルフクラブ)
"中部部点部"モリアルコース

平成15年11月より、東京支部のホームページを運用しています。

支部活動の広報ツール、また、支部会員相互の情報交流の場として活用していただき、同窓会活動を楽しんでいただければ幸いです。

【お願い】

メールマガジン配信のためのメールアドレスの新規登録を、出来るだけ多くの会員の皆様にお願ひします。

【WEB委員会一同】

顧問 森脇敏和、伊村謙士 (49期)

委員長 榎原清佳 (50期)

委員 小島健治、河村修 (51期)

委員 武津雄一郎、末島健一 (52期)

委員 小林香一、内藤久江 (53期)

インフォメーション: 旭陵同窓会の皆さんへのお知らせ、イベントご紹介。
交友録: 同窓会、恩師、園中・西高に係わって来られた全ての方々から頂きました「懐かしい話」「郷土の話題」「近況報告」等、あらゆるジャンルでの寄稿をご紹介。

西高今昔: 西高の今と昔の写真を掲示しています。

掲示板: 任意のテーマで自由にご意見の交換、情報発信ができます。

会 報 : 過去と最新の会報はここでご覧になれます。

リンク : 西高、旭陵同窓会、下関に関するホームページへのリンク集。

2007(平成19)年度旭陵同窓会東京支部総会・懇親会のご案内

開催日：2007(平成19)年7月28日(土) 午後6時から8時 (開場は午後5時30分) (予定)

会場：虎ノ門パストラルホテル 地下鉄日比谷線神谷町駅から徒歩2分
東京都港区虎ノ門4-1-4 (電話) 03-3432-7261 (代)

<http://www.pastoral.or.jp>

総会・懇親会テーマ：「結集！旭陵同窓会 世代を越えて」

世代は違えど、故郷での最も多感な三年間を共有した私たち同窓生が、東京の地で旧交を深め、さらには世代を越えた新たな交流のきっかけの場となるような同窓会として大きく発展させていきたいとの思いをこめて開催いたします。



イベント：同窓生によるジャズピアノ演奏、下関に関わる映像などを検討しています。

参加会費：一般会員 8,000円 同伴者 5,000円

20代会員 3,000円 学生参加 1,000円

東京支部年会費：2,000円

東京支部の円滑な運営のため、年会費のご協力をお願いします。総会にご参加の方は、当日会場にて参加会費と一緒に年会費をお支払い下さるようお願い申し上げます。



★当日のゲスト、来賓の方々(予定)★

1. 恩師

中尾光宏 先生(国語)
西田 昇 先生(社会)
友永次郎 先生(音楽)
(順不同)

2. 同窓会(本部)会長

前田 日出三 様

3. 同窓会(本部)幹事長

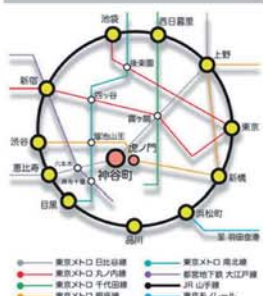
藤本 正三 様

4. 下関西高 校長

貞末 俊裕 様

アクセスマップ

- 地下鉄日比谷線神谷町駅4b出口より徒歩2分
- 地下鉄銀座線虎ノ門駅2番出口より徒歩8分



編集後記

わが支部が結成されたのは1960年。その規約で、総会準備は卒業期ごとの輪番制とされ、当番卒業期全員が担うことになっています。まさに世代を越えて松明が受け継がれてきたわけです。そして、なぜか卒業30年目の同期生が担うのが伝統で、今年は私たち第53期生の番になりました。

ちょうど五十路にさしかかり、とてつもなく忙しい世代です。管理職となり過労死水準の労働に耐える者、地方へ単身赴任中の者、子育て最中の者…。その私たちが、会計、広報、広告・寄付、名簿、WEB、総会設営・運営を担うのですから、任務は決して軽くありません。これまでの当番幹事も同じように苦労してこられたのでしょう。総会テーマは「世代を越えて」。同窓会が続いてきたこと自体が、世代を越えた熱意の賜物です。同窓生が再会の楽しみを味わう場をつくりたい。そのために注がれてきた熱意を受け継ぎ、次の世代につなぐことに、私たちはやりがいを感じています。

この小誌もまた、多くの方々の熱意に支えられてできたものです。いいアングルを探して市内を歩き回ったあけく西高に行き、校旗まで掲げて表紙写真を撮って下さった福田強先生。下関の近況を取材していただいた同期の田邨君。卒業生

との再会を心待ちにしておられる恩師たち。同窓会本部から資料を送って下さった小田修子先生。各地から海外から、寄稿して下さい下さった全ての方々に、53期生幹事一同、心から感謝を申し上げます。

支部規約では、次期幹事が選出されない場合は、選出まで任に当たることも決められています。第54期生が松明の灯を絶やすことなく引き継いでくれることを信じています。

では、支部総会でお会いしましょう。

